

内政改革

府

東京府
電文五五五号

在在

孫公使

在在

陸軍少佐

東京

東京府知事
東京府知事

東京府知事

東京府知事

外務省

東京府知事

東京府知事

東京

東京府知事

東京府知事

MT

1615

486

MT

1615

485

REEL No. 1-0713

0307

60

Otori

74. Care of Kitaki, Fusan.

Confidential. Your private letter received. Although your suggestion regarding Formosa question is duly noted, yet I have to say that such question must, at present juncture, depend upon the strategic plan of 大本營.

But in order to firmly establish independance of Corea and to consolidate 大院君 government it would be necessary that Japan fight a decisive battle with China. For that purpose, it may happen that Japan will send a large number of troops to Corea.

Convince 大院君 of above necessity in order to prevent his suspicion and fear.

sent 5 Augt 1894

Mutsu

五三一

70

MT

1615

487

35

號三九第送費

明治廿九年七月七日起草
同 年 月 日發遣

大正 政務局

次官

喜我

主任

事務局

伊藤由良總理大臣

陸軍省事務長

一及澤森

帝國政府カ東亞兵^{朝鮮}向主ニ派遣セシ目的ハ

外務省

全ク其積年ハ批政ヲ經歷キヤトメテ竟然軍内

江ノ源ヲ絶テ以テ其種ヲ維持シ自主ノ鞏

固ナラシメトスニ在リテ是モ其種ヲ自主ノ權利ヲ

侵奪セシトスルニ非サルハ始メテ廟議ノ法ニ

所ミテ亦本大臣ガ西米各國政府ノ所問ニ

對シ政府ノ代表シテ公然言明ス所ニ之然ルニ

七月廿三日ノ事ニ當リ来一吋ニ推宜ラテ朝鮮

軍隊ノ兵器ヲ取上ケ且ツ其種ヲ奪取ラモ或ハ

MT

1615

489

MT

1615

488

REEL No. 1-0713

0309

力能制とタル迄女ト相成事実上二國ノ独立ニ推テ
 侵托セシ形此事能ハシテ何時迄モ繼續ス
 其第一おもひ返存ノ借題ヲ招キタルハ殊ニ後
 主以存ノ如キハ己ニ中國政府ニ向テ朝鮮が
 國体ヲ維持スルハ其底
 注意ヲ促ス旨ノ明言シ其底
 急タルヤ即チ為モ朝鮮ノ國体ヲ變動ラ生ズ
 ルが如キナルニ於テハ我々ハ決シテ之ヲ黙視セズトイフ
 外ナラサルベク又第二ニ若シ朝鮮ト或ハ國ト商ニ於
 テ或事端ヲ生ゼシコトアリテ之ニ関シ朝鮮政府警
 告權ノ行使スル要スル所アリトモ目下ノ情態
 未間ハ或朝鮮政府於テ他國ニ向テ其警告を
 權ハ日本ノ箝制ニ自由ノ行動ヲ為ス能ハサル
 事ヲ考フルルキヲ保セズ若シ然ルハ中國政府朝
 鮮ノ自主權内ニ侵越セリト責ラ免ラサルベク其
 極竟ニ他國ノ容喙ヲ招ク事ニ至リテハ今ヤ
 一方ニ朝鮮ハ我同盟スルノ事ニ其ノ一歩ク又一方

外務省

MT

1615

491

MT

1615

490

36

第九一第一受密

大臣
次官

廿七年八月八日

善管 政務局加藤

内閣第一三號

善管

明治廿七年八月七日親展送第九三号

朝鮮國武器處分等ニ関スル件請議

ノ通

明治廿七年八月八日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文



外甲三三

内

閣

MT

1615

495

REEL No. 1-0713

03 13

一、以上記載、及び本案、重押、酒、片、片、定、後、片、時、在、
ラ、ス、リ、と、大、開、ク、在、ク、履、南、ニ、我、片、ラ、ラ、撤、退、セ、シ、タ、シ

外務省

MT

1615

500

REEL No. 1-0713

03 15

参考

大島少将ハ零洲案

朝鮮軍隊ノ兵器ヲ取上ケタルハ固ヨリ一時
 權宜ニ出テ帝國政府ノ意思ハ人全ク其
 獨立ノ旨主シテ軍國ナラシメテスルニ在リ直モ
 其獨立權ヲ侵害セントスルノ意ニアラス固
 テ公使ト時機ヲ協議シ取上ケタル兵器
 ヲ悉皆返還スヘシ又ハ政府ヲシテ軍
 國陸軍主長ヲ招聘シ兵士ノ訓練ニ終
 事ヲセシメ我ヨリ海防守シテ其獨立ヲ軍
 國ナラシムルニ勉ムルニ尚詳細ハ郵便ヲ
 以テ訓令ス

大本營

MT

1615

503

38

送第 三 七 號

明治廿七年八月九日 起草
同日發遣

大臣

政務局 主任

次官

海商局

大島公使

陸軍省 陸軍大臣

七月廿三日、事案以來、一付之権宜、以之、
鮮軍隊ノ兵器ヲ取上、且ツ其意ヲ示シテ

外務省

或カ其權制ニテ、或トモ成ニ事、其上一國ノ
其ニ權ヲ侵ル、形、然レモ、其要、折、事、互、以
府カ兵ヲ回、其ノ目的、ハ、今、其、積、年、ノ
其、以、テ、權、事、一、セ、レ、ニ、事、内、江、ノ、源、ヲ、以、
テ、其、權、ヲ、維持シ、自、主、ラ、事、國、ナ、ル、事、ト、モ、在、リ、
毫、モ、其、其、自、主、ノ、權、利、ヲ、侵、害、セ、ト、モ、シ、テ、
非、サ、ル、ハ、始、メ、テ、意、深、ノ、決、心、ト、モ、テ、亦、ラ、古、也、
カ、既、来、ノ、事、ト、モ、其、所、向、ト、モ、其、政、府、ノ、代、表、ト、モ、

MT

1615

505

MT

1615

504

公然之明を所爲すに於て一討ノ格直に出
ル行由シテ此後何時も継続せしむル第一の
要は各ノ格格ヲ格々ニ至ルベク殊ニ各各ノ
如キハ此ノ帝皇に對シテ向テ常ニ以テ各ノ
府多ク受テ所ノ權限ニシテ各ノ朝鮮カ格三
政府トシテ各ノ國トシテ各ノ條約ニ達スル
ル片ハ有効ノモノトスル或ハ一ノ帝皇に對テ
不爲リ明ニ其ノ意ニ云テ亦即チ各ノ朝鮮ノ
格三ニ對シテ各ノ動ヲ生スルカ如キナルニ於
テハ此ノ格三ニ對シテ各ノ動ヲ生スルカ如キ
ハ此ノ朝鮮ト或ハ各ノ國トシテ各ノ格三
ヤレテアリテ之ニ對シテ朝鮮ニ各ノ格三
動ヲ受テ各ノ格三アリトモ各ノ目下ノ格三
ハ或ハ朝鮮ニ對シテ各ノ格三ニ對シテ各ノ
ハ日本ノ格三制ノ各ノ自由ノ行動ヲ各ノ格三
各ノ格三スルナキヲ保セズ然ル片ハ各ノ格三

外務省

MT

1615

507

MT

1615

506

朝鮮自由権由に侵越するに事なきを以て
 へく其極意に他志の容れ難しむるに思ふべし然
 るに今や一方に朝鮮の科田盟を以て事なきを奉
 げ又一方に天津條約を以て一片の廢成を歸し
 ぶ右の上を以て所を武を以て事なきを返還し朝鮮
 改革らしき帝皇陸軍士官が聘しし者も兵士も
 訓練の役事せしめしを極意に隨て返すに時様を
 見計るに王宮其他の場所の守衛兵の如きも可
 外務省
 成朝鮮兵の多敷しに之に背らしき漸々朝鮮
 兵に之を以て守衛せしむるに時様を以て又事なきを
 制する如き此田河を以て事なきを以て事なきを以て
 におもふべきを以て事なきを以て事なきを以て事なきを以て
 らしめしに事なきを以て事なきを以て事なきを以て事なきを以て
 要且つ備へしに事なきを以て事なきを以て事なきを以て事なきを以て
 武器返還の時様を以て事なきを以て事なきを以て事なきを以て事なきを以て
 事なきを以て事なきを以て事なきを以て事なきを以て事なきを以て

MT

1615

509

MT

1615

508

朝鮮王に對しテ皇帝政府が公平を裁
 量の表示は是に於て又一に於ては外國に對しテ
 皇帝政府の對する防衛は彼等をして
 空しくせしめしむるに於ては我々の尤目
 の書はト可解の中ノ一トハ百率ヲ得テ皆
 ナ年和の時ニ於て是が如キハ國ヲ恃執力上
 許サレ所アリト雖も日對して是朝鮮王に
 立ニ体面ヲ全フシ併セテ同盟ノ契ヲ結
 ばスルニ
 外務省
 眼前之急務ニ是を以テ
 之を以テシテ是事は措き去るべき事ナリ
 之に對して是等之類は極力之を
 去ルべき地駐在ノ各員及び各員ノ
 顧問等モ之を以テ之を以テ此の訓令ノ
 旨に於て是等之類は極力之を去ルべき事
 御覽ニ付其地は海軍ニ對しては軍艦
 司令官及海軍少將等ノ
 官及司令官等ノ

MT

1615

511

MT

1615

510



大臣



電送第五六五號

33^u

(Otori. Care of Sitaki, Fusan.
(79.) China issued declaration
of war 八月一日 in which protection
of tributary state and expulsion
of Japanese troops from Korea
are main feature. Copy will
be sent by mail.

Mutsu

Sent 12. Augt 1894.

translation is published in North
China Daily News the issue of 八月五日

MT

1615

513

Otori

Care of Sitaki, Fusan,

It is said that a diplomatic
official in 東京 received a letter in
which it was stated that some highest
members of the late Korean Ministry 閣族
continued to communicate secretly
with foreign legations in 京城 after
their deposition with the hope of
enlisting sympathy, and inducing
envoys to report to Europe and
America in their favor. Tell this
大隈君 and have those late
Ministers and other suspicious persons
removed to such places where they
cannot communicate with foreign
Ministers secretly.

Mutsu

Sent, 10 Augt 1894.

MT

1615

512

電送第五五五號

66^u

大

次官等

39

第一四一號

七月廿三日

七月廿三日

七月廿三日奉安前後、執りし方針、大略

内政改革、勸告朝鮮政府ヲ拒絕セラレ

タリ時我カ取ルベキ手段ヲ去七月十日附機

密第一二二號信ヲ以テ同出ル處同二十日正

リ朝鮮政府ヲ我勸告、對シ不満足ナル回答

乙案ノ手段ヲ執ルルハ、お決シテ第一省手トシテ

一片ノ週知ヲ以テ釜山電線ノ架設ノ着手シ

第三兵營ノ設置ヲ督促シ第三兵營ノ撤回ヲ

四法條條約ノ廢棄ヲ請求シ而シテ第三ノ法

求メ給シテハ、口月二十日中、決答ノ為メ下

名目張リ立テ、及嚴促メ、口款十一時迄外

務督辦ヲ我請求、適當セザル曖昧ナル返答

可シク付直チ之ヲ反駁シ時宜ニ因テハ我權

利ノ伸長セシガ為メ兵力、依頼セザル得ル不

幸、之ヲ以テ、口款十一時迄、二十三日朝、奉

安ヲ促致シ、口款十一時迄、口款十一時迄、

手段ヲ執リシ決心ハ、第一當面執政者ノ更迭

ヲ促シテ内政改革ノ端緒ヲ開カシメ第二日

清一軍我ニ先テ紳廷ヲ改革派ノ手ニ屬セシメ

以テ我運動ノ利益セシメトノ考案、外ナラス、而

シテ第一ノ希望ヲ達セシカ、為メ閣派駁ヲ始メ

諸閣員ノ有力者ヲ除キ、國王ノ城外、移御

セラレ、トシテ豫防シ、大規模ヲ推シテ政府、立

Main body of handwritten Japanese text, including a date stamp and a location stamp '在朝鮮國日本公使館'.

MT

1615

515

MT

1615

514

REEL No. 1-0713

0324

シノ。之ノ口特ニ改革派ノ人トテ奉ケテ改務ニ参
 共セシメテ以テ内政改革ノ実効ヲ奏セシメント計
 画ニシタシムルニシテ又諸事我計画ニ如ク都合
 能ク行ハレ今日也蓋シタシ遺美無ク又目ニ韓
 廷ノ官民ニ極小日清兩國ノ勝敗ヲ付當ト西
 端ニ親望スル者有リ又得ル者山火捷後大勢
 ハ既ニ定リ且テ改革事業日々進歩スル付昨今
 ニシテ人心沸ク弊ヲ溢シ難キ遊難ノ市民抑日々
 帰誠シ市井ノ賑ヒ半ハ田ノ復シ中々又韓廷近
 日ノ権柄ハ大段急改革ノ局面ニ當ルニ雖凡
 百ノ政務ハ領議政金宏集ニ委任セラレ而シテ領
 議政ハ一面軍國機務處會議ノ議長ナリ六諸
 事會議ノ輿論ヲ集メ上奏裁可ヲ得ル之ヲ施

在朝鮮國日本公使館

行スル手續ヲ執リ毎ノ一議案ハ孰シモ重大事件
 ニテ既ニ新官制ヲ議定シ且リ重ナル旧弊ハ大抵
 廢除スルノ決定セシメ又其好ニ進ムノ報告ニテ
 即チ政府ニ報告スルニ依リ此ノ一業務ヲ奉ケテ
 政府組織セラレ我々各部門ニ從ヒ顧問官ニ
 任セバ又内政改革ノ實効執テ了ラテ了ラ
 存ス目ニ朝鮮ノ形勢ニ際シテ如何ニ傾キリ
 今後我カ執ルべき政策ハ如何ニ決定スルキヤ鄙
 考ニ據ルニトキイ

第一外患ニ對シ能ク朝鮮ノ獨立ヲ保

護スル事

今日ノ場合ハ朝鮮ヲ陽ニ我保護ス
 下ニ置キ我々了之ヲ扶掖シテ獨立ヲ基



1615

517



1615

516

礎ヲ固シムルハ驕兵ノ勢不可已也
ヤレバ此條我目的ヲ達セシカ爲メ兩國
間、秘密軍事條約ヲ訂法シ朝鮮ノ
陸海軍ハ必要ノ後ニ何時ニテモ我使用
ノ供え約束ヲ爲ス可シ

第二 務メテ朝鮮官吏ノ心ヲ懐柔シ彼ハ
ソシテ萬一ニモ他ノ外志、傾意ヲ掛念
ナカラシムル事

朝鮮政府ハ既、改革派ノ手、歸シ諸
事我勸告ヲ容ル、傾向アル以上、我々
強硬主義ヲ以テ之、對スルハ不得氣
ナリ要ス、我々朝鮮ヲ取扱フ寬嚴ノ
度、各段各法、必カ朝鮮ノ取扱ニ
在朝鮮國日本公使館

度、各段ニ比較シテ一層朝鮮ノ利益
ヲ考メザル可カラズ然ラザレバ朝鮮ノ唇
ハ平ノ苦悶、堪クズシテ終、第三者、依
頼スルニ至ル可シ

第三 朝鮮ノ外交事務、白ラ特ニ注意シ
其ノ將來各國ト關係ヲ生ゼサル條
條防スル

外債償却、爲メソ金貨ヲ要スルト
キハ一時之方條、精ヲ爲ス可キ必要
ナリ

以上陳述シタル前半段ハ、右官ガ是迄執リシ
方針ノ大略、右後半段ハ、將來我對韓
政略ヲ定ムル付、鄙見ヲ陳述シタル者、以テ

MT 1615 519

MT 1615 518

REEL No. 1-0713

0326

併多脚参覽古申方又尤を將來報解り如
 何ナル地位に置年我ハ何ナル地位に立リ一平ヤ素
 多ク一定、而廟筭方ハ義ハ有リ得ルに鄙考
 ニハ報解り獨立五ト推立テ少クを彼ハ獨歩ノ
 実力ヲ得んミラハ我保立渡ノ下ニ置年萬事扶持
 之ノ外、及及上及愚考及付不取敢有
 陳ノ鄙見ヲ即参考、供シ又廟議確定ノ上
 何分ノ所、則系申方及及内申ス也
 明治三十七年一月四日

特命全權公使大島圭人



外務大臣陸奥宗光殿

在朝鮮國日本公使館

編者附言

大島公使、月四日付採密文一四二号ニ對シ、
 一應ノ回答、左月十三日付陸奥大臣ヨリ
 同公使宛私行ニシテ、
 右、理事長並職員、一日情勢、極端ニ急變シ、
 申大島駐韓公使、私行ニシテ、題文ニ出款
 申ス。

MT

1615

521

MT

1615

520

第七號八月十三日發受

高野

樺密牙三十一号

本邦人ヲ朝鮮官吏ニ任用ノ件

客月廿三日以來ハ臣承知ノ通り朝鮮政府部内ノ局面
 俄カニ一変シ当國第一流ノ人物タル大院君國王陛下ノ
 口委託ニ因リ萬機ヲ總裁シ首トシテ文武百官ノ更迭ヲ
 行ヒ多量ノ國政ヲ誤リ遂ニ今回ノ大事件ヲ激成シタル
 姦臣臣泳駿ヲ始メ其同類者ハ悉ク黜罰ヲ受ケ他ノ
 有用ナル人物之ニ代リテ中央政府樞要ノ位置ヲ占ムルコ
 トニ相成リ此等ノ人々ハ從來ノ在朝者ト異リ皆テ我政
 府ノ意ニ從ヒ真ニ國政ヲ改良セント企テ頻リニ評議ヲ凝
 シ其方法ヲ調査致居候由ニテ得共元來当國政府
 上ニ根本的ノ大改革ヲ加ヘ之ヲ開明富強ノ域ニ導キ以テ
 其獨立ヲ保タシメントスルニハ本年六月六日付樺密牙

在朝鮮國京城日本領事館

第六二一號受

40

次

大臣

ニ十七号上申書中ニモ開陳致置キ候通り到底當國人ノ
 独力ヲ以テ能ク其目的ヲ達シ得ベキニヤラザルヲ以テ我政
 府ハ当國政府ヲシテ此大業ヲ成就セムル為メ飽止其國
 政ニ干與シテ相當ノ助力ヲ與ヘカレザル事ト存矣然レ
 我政府ガ当國ノ國政ニ干與スルコトハ即チ我國カ擁護セン
 トスル當國ノ獨立權其物ヲ自ラ侵害スル次牙ニ自家權
 着ノ所業ト相成ルベキ嫌モ有之候ニ付其不都合ヲ辯ケン
 トスルハ前記上申書中ニ開陳致置キ通リ當國政府カ
 其内政改革方ヲ我政府ニ委任スル條約ヲ締結シ我政
 府ハ條約上ノ權利トシテ當國々政ニ干與スルコト最モ上
 策ト存候得共若シ今日ノ場合未タ斯ル條約ヲ締結
 スル時樺密牙達セズトノ所見ハ臣陛下及ハ、差當リ當國
 政府ヲ勸誘シテ本邦人ヲ當國官吏ニ聘用シ政府部内

MT

1615

523

MT

1615

522

REEL No. 1-0713

0328

概要ノ位置ヲ占ムルコト同下ノ急務ト存ス

併シナガラ本邦人ヲ当国官吏ニ採用スルニハ我政府ニ於テ相
当ノ取締法ヲ設ケ置ク一最モ必要ニシテ若シ其採用方
ラ当国政府ノ意ニ一任スルトキハタトヒ本邦人ト雖モ一旦
当国官吏ニ任用サレタル以上ハ必ズシモ我政府が当国ニ
對スル政畧上ノ方針ニ後ヒ其職務ヲ執行セザル場合モ
有之ベク且ツ旧來我國ニ縁故アル当国人一朝勢ヲ得テ
高官ニ就キタルトキハ相当ノ學識經驗ヲ有セザル本邦
人返モ唯其故旧タル故ヲ以テ續々當国官吏ニ採用セラ
ルノ弊害生ズベキ事ト存候ニ付キ我政府ニ於テハ政
等ノ弊害ヲ防キ且ツ本邦人ノ当国官吏ラニテ在職中ハ
專ラ我政府ノ意ヲ承ケテ其事務ニ従事セシムル為メ
左ノ通り内規ヲ御定メノ相成モノト存候

在朝鮮國京城日本領事館

一、當国官吏ニ採用スル本邦人ハ凡シ我政府ノ推擧ニ依
ラシムル事

二、我政府ハ可成現職ノ官吏中學識經驗ニ富タル者ヲ
撰拔シテ之ヲ非職ト為シ當国政府ノ招聘ニ應セシムル
事

三、當国官吏ニ任用サレタル本邦人ノ職務上ノ行為ハ我公
使ニ於テ内々之ヲ監督シ我政府ノ方針ニ一致セシムル事
四、本邦人ノ當国官吏ニシテ我政府ノ方針ニ違背スル所
業アル者ハ當国政府ニ申入レ之ヲ懲戒又ハ免職セシム
ル事

五、當国政府が本邦人ノ當国官吏ヲ懲戒又ハ免職スル場
合ニハ我政府ノ承諾ヲ受ケシムル事
右ノ方法ニヨリ我政府ハ各科専門ノ人物ヲ派出シ當国

MT

1615

525

MT

1615

524

官吏ノ名ヲ以テ財務軍務立法司法教育通信運輸
殖産興業及其他百般ノ政務ヲ分担シ国政改良ノ
主働者ト爲リ我政府ノ内意ヲ承ケテ治深ニ主働カ
シメ候ハハ我政府ハ表面上当国々政ニ干渉スルコトナク
シテ改革事業ハ其満足スル如ク実行セラルベキ事ト
存候尤モ本件ハ我帝國政府ガ當国ニ對スル政
政畧ニ關スル件ト付小官等彼是可申進限リト無之
トハ存候得共国政改良ノ方法ト其速速トハ当国
在留本邦人ノ利害ニモ相関シ其義ニ付小官ノ
意見トシテ此段申進候致具

明治廿七年八月四日

在京城二等領事内田定



在朝鮮國京城日本領事館

外務大臣陸奥宗光殿

MT

1615

527

MT

1615

526

REEL No. 1-0713

0330

大臣

次官

號-0-第送親展

41

明治廿七年八月十五日起草
同 年 月 日 發遣

高松

主任

喜美

伊藤内大臣御覽

陸軍省事務長

及海軍

本大臣は去月七日附送第九十三号の如く

外務省

出せしめ漢法官以上は後朝鮮政

府に對する外交上及軍事上の行為は總て右廟

漢に北月度セサル様注意セサルハ固ヨリ言

フ待タザル義有之ル也昔即今ノ形勢ニ就ヒ言

フハ我國の既ニ清國ト空戰中ニ有之而シテ軍

器上ノ都合ヨリシテ總テノ陸兵ハ金山ヲ以テ上陸

地トナレテ從^横朝鮮國內ヲ海行シ尚今後戰

闘ノ進行ニ依リテ單ニ其國內ニ屯在る清國軍

MT

1615

529

MT

1615

528

兵ヲ回忌境外に驅逐スル止マズ或は道ヲ回互
 假リテ直チに清國疆域に攻進スルに已ムヲ許サレ
 至ルベキヤモ不被計一勇隊ヲ於テ朝鮮五ハ
 恰モ日清戦争ノ戰場若クハ戰場に達スベキ間
 政ノ如キ邊ナラハ以テ之に對シテ今ノ平和時に於
 テルガ如キ手段ヲ執リ居テ能ハルベク勿論ノ義
 者之然シカラ本問題に對シテ帝國政府に已
 政事委員及び外交官等然言明シタル所ニ有テ
 外交上ニ於テ軍事上ニ於テ
 以テ其外交上及軍事上ノ行為に至ラズ總テ未
 各國に對テ其責任をセザルヲ得サレテ著シク國際
 公法ノ範圍外に轉出スルガ如キ行動ニテ様格
 外ニ慎重ヲ加ヘザルベカラサル者之尤今日ノ場合一
 方ニ於テ朝鮮國內に於テ戰鬪ノ設備ヲ備ヘ
 又他國未曾有ノ改革ヲ奉行セシメ他方
 於テ國際公法ノ常軌ヲ國守セドモハ時ニ或ハ
 常軌ヲ生シテ不便ヲ感スルコト少カラザルベク去

外務省

MT

1615

531

MT

1615

530

又之が為メニ他強國ノ非難ヲ招キ我政府ラシテ
 殆ト若辭ニ苦シムカ如キ地位ニ陥ラレメテハ決シ
 テ得計ニシテ之ニ要スル今日朝鮮國ノ地位ハ我
 カ同盟ニシテ敵國ニシテ之ニ対シテ終極ニ回互政
 府及人民ノ敵意若ク然レハ引起サル極海言
 ラカス一曰取モ肝要ニシテ之又第一ニ我ハ已ニ朝鮮
 ノ獨立國ト公認シ且ツ其疆土ヲ侵畧スル意思ナシ
 ト明言シタル以上言行一致ヲ保ツタメ其獨立國ト
 ル面目ヲ著シテ毀損スルカ如キ行爲ニ可成之ヲ避
 ケ我軍隊ノ運動ノ如キモ總テ朝鮮ノ政府ノ同
 意ヲ得タルカ若クハ朝鮮ノ政府ト一体ノ運動ヲ為
 スカニ要スルヤケル一肝要有之又帝國政府ニ於
 テ朝鮮ノ政府ニ向テ其政治上ノ改革ヲ勸告スルニ
 付テハ軍純ナル勸告ニ止マラスニテ時宜ニ依リテハ多少
 強勸勉從セシムルモノ有之又軍事上ニ於テモ種
 タノ補助ヲ要求スル場合ニ至リテハ其ノ勸告ノ勸

及此疆土ヲ實際ニ侵畧スルカ如キ形勢
 外務省

MT

1615

533

MT

1615

532

告要求モ時トシテ一回返答又人ノ氏ニ於テ堪ヘ得
 ガル感ラ生ズルノ恐ナレトモ無論今日ノ交ニテ
 政府モ到底我ニ倚頼セザル共ニ保全ニ
 丁能ハストノ觀念ヲ有スルモ如クナレバ萬事勉強
 ニテ相應居ル相違ニテ其旨我要求過度
 ニ至ラハ彼竟ニ堪得スレバ本意ナカラモ情ヲ他歐
 洲各國ニ訴ヘ我勸告要求ヲ猶豫シ若クハ延
 展セシムル求ルニ至ラザラ保全既ニ前ニ提出セシ
 洋書
 陳述セシカ如ク我々政府ノ如キニ至ラハ中
 其間際ヲ窺居ルコト判然ニ若シ一旦如此
 機會若クハ口實ヲ得ルハ必不巧ニ朝鮮政
 府ヲ籠絡シテ竟ニ日韓間關係ヲ轉ジテ日
 露韓ニ至リ涉ル關係トシ朝鮮政府ニ代ハリテ
 我ニ抵抗ヲ試ムルニ至ルヤモ以テ我々現ニ
 六月廿九日付在露特命全權公使申維澤市
 ヲ機首第一号行ニシテ累ホテ露國政府ノ底

外務省

MT

1615

535

MT

1615

534

REEL No. 1-0713

0334

意ノ在ル所ヲトスルニ是レハケレバ此係帝國政府
ニ於テ義務マテ事ヲ情ニ生シテ第三國ノシテ客
易ニ客喙干渉セシメザル様注シテスベキトナリ
就テ大正ノ三點ニ本大臣ヨリ大島公使ニ
細カク及及女官當該年例ヨリ朝鮮出
張陸軍總指揮及對シテ之を綿密ニ列在
シテ我々レシテ事ヲ為ス

第一朝鮮ノ独立權ヲ侵シ去ルガ如キ行

外務省

為レ侵奪軍事上不便若クハ不利益
涉ルコトアルモ可成之ヲ避クベキ事

第二朝鮮政府ニ對シテ請求ノ時ニ已ムヲ得
ザル場合ノ其ノ時ニ對シテ請求ノ程
度ハ朝鮮政府独立ノ体面ニ對シ及ヒ
新設政府ニ伴フ經濟上ノ關係ニ對
シテ得マシ度合ヲ限リテ是レ朝鮮
政府ニシテ我々要求ニ堪ヘカク感ヲ起サ

MT

1615 537

MT

1615 536

シメサル様之旨ニ答ヘル事

第三 朝鮮ハ我同盟ニシテ敵國ニ非サレ同
國ニ於テ軍事上及其他ニ必要物ヨク

ル片ハ成丈其満足スベキ代償ヲ吐クハ決シ

テ侵略ノ形跡無ク之様ニ望ム事

事

右乞函件

外務省

MT

1615

538

REEL No. 1-0713

0336

58

天皇
陸奥

親展 第一二一號

明治廿七年八月十六日起算
同 年 八月十七日 發遣

主任
多田

伊藤内閣總理大臣

陸奥外務大臣

閣議案

外務省

朝鮮事件の當初大島公使の赴任に臨み等

畫せしめん所ノ廟算ニ比して外交上ニ於テモ軍事

上ニ於テモ存リシ局面ニ云遷ニ遭遇シ歩々深

入遂ニ今日ノ形勢トナリ而シテ目下ニ施スベキ政

畧ニ至テ隨時ニ廟算ヲ決定スル所スラ以テ其成

議ニ遵ヒ之リ遂行スベキ一固ヲ論ラ待タスト

雖氏將來朝鮮ヲ如何スベキヤトイフ問題即チ

本件ノ最後ノ大目的ノ如何トイフ問題ニ至テハ

第一ニ帝國政府ハ朝鮮ノ内政ヲ改革スルガ為メ

MT

1615

540

MT

1615

539

REEL No. 1-0713

0337

又其独三ヲ永久ニ保全スル方メニ見テ清國ト
 交戦セサルヲ得サル場合ニ至リ現ニ尙ホ交戦
 中ニ在ル到底日清間最後ノ勝敗ヲ見ルノ日
 ニ非ズバ實際ニ起リ来ルベキハ無之然レモ今ニ
 於テ此問題ニ對スル一ノ方針ヲ確定シ置クコトハ
 自今帝國政府ガ執行スベキ外交上及軍事
 上ノ措施ニ關シ頗ル緊切ノ干係ヲ有スルニナラズ大
 島公使ヨリモ本問題ニ自政府ノ方針ヲ伺ヒ来
 リ唐ト本大臣ハ前々左記ノ考案ヲ具シ以テ預メ
 廟議ノ確定スル所ヲ駐カムコトヲ望ム
 甲、帝國政府ハ既ニ内外ニ向テ朝鮮ヲ一獨
 立國ト公認シ又其内政ヲ改革セシムベト聲
 明セリ就テ今後清國トノ最後ノ勝敗相
 決シ而シテ我輩ガ冀望スル如ク我帝國
 ノ勝利ニ歸シタル後ト雖モ依然一個ノ
 独立國トシテ全然其自主自治ニ放任シ

外務省

MT

1615

542

MT

1615

541

我ヨリモ之ニ干渉セス亦夕毫モ他ヨリノ干渉ヲモ許サズ其運命ヲ彼ニ一任スル事但レ此方策ニ付テハ左ノ疑問ヲ生ス

一、朝鮮ノ如キ久ク紀綱廢頽萎靡不振官民共ニ独ニノ^志魚尚ニ之ニキ國柄ニ在リニ及今一時他ノ刺撃ヲ因リ其内政ニ多少ノ改革ヲ加ヘタリトモ之ヲ永久ニ維持シ又時ニ應ジテ之ヲ改進セシムルハ甚ダ疑ナキ

外務省

一、能ハズ若シ然ルハ帝國政府が今回大兵ヲ派出シ巨額ノ軍費ヲ使用シタル結果ハ竟ニ水泡ニ歸スラ免レサルベキカ

二、若シ此ノ如ク朝鮮カ自ラ独ニヲ保持シ難キトシテ知リナガラ其將來ノ運命^命ヲ全ク彼ニ一任スルハ或ハ恐ル他日清國ハ其際^再ヲ規ヒ間接ニ直接ニ朝鮮國政ニ干渉シ或ハ現在ノ政府ヲ顛覆シ奉天堂ト稱スル

MT

1615

544

MT

1615

543

閩族一派ノ徒ヲ以テ更ニ政府ヲ組織セシ
 メ恰モ日清文戦前ノ如キ清韓ノ關係
 ヲ再現セシムルコトヲ高シテ一旦如此場合ヲ生
 ズルハ帝國政府ハ其經歷上袖手傍觀
 シテ全ク清國ノ所為ニ任スルコト能ハサルハ敢
 テ言フ待タザルカ故ニ必ズ再々之ニ對シテ争
 論セサルヲ得サルニ至ルベク而シテ斯ル争議ハ
 到底樽俎ノ間ニ圓滑ナル妥局ヲ結ブハ
 外務省
 極メテ得難キ事トシ其極終ニ再日清
 兩國間ノ平和ヲ破ルニ至ラサルヲ得サルベク是
 レ恰モ日清兩國カ朝鮮ニ關スル戦争ノ歴
 史ヲ再演スルニ過キサルベク(然レ其ハ)今固ク盛衰ヲ
 シテ殆ト徒勞ニ止セシメ見戲ニ終ラシムルノ恐ナ
 キカ
 乙、朝鮮ヲ名義上独立國ト公認スルモ帝國
 ヲ間接ニ直接ニ永遠ニ若クハ或ル長時間

MT

1615

546

MT

1615

545

其独立ヲ保護扶持シ他ノ侮ヲ禦クノ方
ヲ取ル事

但シ此ノ方策ニ付テハ尤ノ疑問ヲ生ス

一、朝鮮ノ独立國タルノ及其疆土ヲ侵畧ス
ルノ意思ナレトモハ帝國政府ガ從來各國政府
ニ向テ公言シタル所ナル今仮令間接タリトモ

彼半島ノ一王國ヲ以テ帝國ノ勢力ノ下ニ

屈服セシムル片ハ遂ニ他外國ノ非難ト猜忌

外務省

トヲ招キ或ハシガ為メニ無数ノ葛藤ヲ生

スルノ直接ナキカ

二、帝國政府ハ以上ニ述ルカ如キ困難ヲ顧ミ

テ朝鮮ヲ保護國ノ如ク取扱ヒ得ルトスルモ

他日或事ニ及ニ関シ清國露國其他朝鮮

ニ利害ノ關係ヲ有スル邦國ヲ朝鮮ノ独

立ヲ侵害スルコトアルニ際シ帝國ハ独力ヲ以テ終

始日國ヲ防禦シ之ヲ保護スルコト得ナキカ

MT

1615

548

MT

1615

547

丙、朝鮮ハ其自カラ以テ其独立ヲ維持スル一
能ハス又我々帝國ニ於テモ直接ト間接ト間
分独カラ以テ之ヲ保護スルノ責ニ任スル一能
ハストル片ハ嘗テ英國政府ガ日清兩國政
府ニ勸告シタカテ如何朝鮮領土ノ安全ニ日
清兩國ニ於テ之ヲ擔保スル事

此方策ニ付テハ左ノ疑問ヲ生ス

外務省

一帝國政府ニ於テ其戰勝ノ勢カラ以テ清
國政府ト協定セシメ開戦前ニ於ケル如
ク同國政府モ頑冥固陋ノ説ヲ主張セ
ガレト雖モ彼儀式的宗属問題ハ到底
之ヲ抛棄セザルベシ而シテ我々於テモ開戦前
ニ於テハ曾テ英國政府ニ明言シタル如ク彼
若シ屬邦論ヲ提起セザレバ我々亦必シモ独立
論ヲ主張セザルベシト雖モ戰勝ノ後ニ
至テハ清國カ朝鮮ニ於ケル關係ニシテ實利

MT 1615 550

MT 1615 549

上下名義上トシテ論セズ苟モ帝國カ朝鮮ニ
 於テ關係信ヨリモ優等ナル觀スルハ到底帝
 國カ姑容耐忍スル能ハル所ナルレ故ニ或ハ
 斯ル無要ナル爭議ノ為ニ遂ニ又議破ルカ
 否サレバ談判遲延シテ長ク交戰國ノ情形
 ヲ迷續スルニ至ラサルカ
 後ヨリ
 一清國政府ハ我ニ屈服シテ宗屬關係ノ間
 題ヲ提起セザリトセカ日清兩國ニテ朝鮮
 疆土ヲ保全スルニ付テハ勢ヒ日清兩國ヨリ朝
 鮮ノ政務ヲ補助スベキ監督官若クハ委
 員ヲ派遣セザルヘカラサルノミナラス或ハ互ニ多少
 ノ軍隊ヲ駐屯セシムルノ要アルベシ然ルニ日清
 兩國カ朝鮮ニ對スル利害ノ關係ハ常ニ相ヒ
 及對スルノミナラス日清兩國政事家ノ主義
 モ常ニ氷炭相容トサルヲ以テ兩國政府カ朝
 鮮ニ對スル意見往々衝突シテ一致ニ阻セザ

外務省

MT

1615

552

MT

1615

551

REEL No. 1-0713

0343

ルに至ル一必キ其極意ニ第一疑問ニ於ケルガ
如キ結果ヲ生セサルカ

丁、朝鮮カ自カラ以テ独立ニ國タルハ到底望

ムカラスルトシ又帝國カ独カラ以テ之ヲ保護

スヲ不利ナリトシ又日清兩國ニ其独ニラ擔

保スルニ竟ニ彼此協同一致^{ヲ得キ}ニ至ラズハ朝

鮮ヲ以テ世界ノ中ニ三國ト為サシラ我國ヲ政

米諸國及清國ヲ招誘^{朝鮮國ヲ以テ}シ恰モ歐洲ニ於テ

外務省

白耳ノ義瑞西ノ如キ地位ニ至ラズル事

但シ此方策ニ付テ是ノ疑問ヲ生ス

一朝鮮國ニ最モ利害ノ關係厚キモノ日清

兩國ニシテ今固ノ交戦ノ如キモ亦夕日清兩國

間ノ利害ノ衝突スルニ過キサルハ此戰爭ノ結

果ヲ生スル所ノ名譽ト利益ト固ヨリ他歐

洲各國ノ利害ト必要ナク又之ヲ分味ラセシ

トスル邊ニ所謂大骨折ニ鷹ノ餌食トイフ

MT

1615

554

MT

1615

553

カ如ク帝國ノ失フ所得ル所ニ超過スル觀
ヲ呈シ頗ル帝國人民ノ満足セザル所ナレバ
況ヤ帝國政府ハ大兵ヲ出シ巨額ノ軍
費ヲ費シタル結果何ノ得ル所モナレトモ到
底世論ノ攻撃ヲ免レザルベキカ

古ノ如ク考察シ来ル甲乙丙丁ノ四問題ハ何レモ
一利一害ヲ存スルモノニシテ若シ一之ニ其扶フ所ヲ失
スレバ頗ル禍害ヲ後世ニ遺スル恐ナキ能ハズ然レバ
外務省

朝鮮ニ関テ將來ノ地位如何ヲ考フルベク
此四方策ノ外ニ出ザルガ如シ而シテ其何レノ方策
ニ注目スルヲ問ハズ日清交戦日取後ノ勝敗相ヒ
決シタル後ニ非サレバ相起ラサルノ問題ナリト雖尼廟
算ハ豫メ此内ノ一ニ確定スル所ノモノアラサレバ今日
外交上ノ操縦ニ於テモ又軍事上ノ行動ニ於テ
モ頗ル重要ノ關係アリ故ニ預メニ廟後ヲ確定シ
置カレトシテ以上ニ列挙スル四方策ノ外

MT

1615

556

MT

1615

555

尚ホ閣僚諸公ニ於テ高明ナル考察アラハ固ヨリ
其方策ヲ駐カムヲ冀望ニ堪ヘス
右乞閣詳

外務省

MT

1615

557

REEL No. 1-0713

0346

57

大正七年

號九九一第受

廿七年八月廿日接受

主務政務局

内閣第一四號

内閣

明治廿七年八月十五日親展送第一〇一號

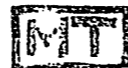
大島公使及朝鮮出張陸海軍總指揮官、訓令ノ件請議ノ通

明治二十七年八月二十日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文



内閣



1615

558

REEL No. 1-0713

0347

59

大臣

陸奥

次官

編

送四第 五

明治廿七年八月二十日起草
同日 廿一日 陸奥 廿二日 陸奥
主任

陸奥

陸奥
大島公使

陸奥省

帝國政府ハ朝鮮政府ニ對スル行為ノ義ニ付
三月九日 機密送第百二十七号 陸奥省
外務省

及阿含ニ至ル義古ニ果テ即今ノ形勢ニ就
ヒテニテハ片ハ帝國ハ已テ清兵トシテ戰中ニ在リ
而シテ軍界上ノ都合ヨリテ海軍陸軍兵ニ對シ
テ以テ陸地トシテ陸軍ニ對シテ朝鮮國內ヲ通
行シテ今ノ後ノ戰鬪ノ進行ニ依リテ軍ニ對
シテ在リテ清兵トシテ陸軍ニ對シテ驅逐スル
止ラズ或ハ道ヲ回ルニ假リテ其ノ陸軍ニ對シ
テ攻進スルノ已カラ得サルニ至ル事ヤモ不設計ニ至

MT

1615

560

MT

1615

559

係に於て朝鮮を以て日清戦争の戦場若
 くは戦場と看するに自願の如きは之に對し
 て全く平和の時と看するが如き旨を返す執儀に於
 てハルハ勿論ノ義ニ由るべき事也
 ハ帝皇の旨に已て終末各志の旨に對して公然
 言明せる所を其の旨に對して及至軍事
 上ノ行爲に及ぶ迄に御意を以て其旨に任
 せらるる旨に對しては上ノ旨に任せてモ著
 しく是れは公法ノ範圍外ニ轉出スルが如キ行爲
 多ク極極多ク是れ如ハガルハカサル義ニ由る
 尤今日ノ場合一方に於て朝鮮を内ニテ觀
 戦闘ノ設備に及ぶるは又日清戦争中の改革に於
 ける等々推して行つて他一方に於て國
 際法ノ常軌に循守せしむるに對して是
 等々生じて不便ヲ感ズルハ少カラサルハ是れ
 之が爲に他國を非難する程に帝皇の旨に

外務省

MT

1615

562

MT

1615

561

して強トサシテ辭ニ苦ムカ如キ地位ニ隔ラセメテ
 一ハ決^算日^算決^算タルモノトシテ之ノ要之今日朝鮮王ノ
 地位我カ同盟ニシテ敵ニ之ヲ之ヨリ始テ回
 不^算政府及人民ノ敵ニ若ク然心ヲ引起ササル
 極^算意ヲ加フルノ最モ肝要ニ有之又第二ニ我
 ハ已ニ朝鮮ヲ我ニ國公認^算且ツ其疆土ヲ侵
 累スルニ意ヲ示シタル以上ノ言行ノ一歩ヲ保ツタ
 其物ニ至ルニ面目ヲ著ク^算毀^算員スルカ如キ行動
 外務省
 乃其疆土ヲ侵^算取^算シタルカ如キ形跡ハ可
 成^算之^算辭^算我軍隊ノ進^算動^算ノ如キモ總テ朝
 鮮政府ノ同意ヲ得タルカ若ク朝鮮政府ト一
 体ノ進^算動^算ヲ為スカ^算其^算ノ^算肝^算要^算ニ之
 又帝^算志^算政府^算ニ於テ朝鮮政府ニ白テ其^算政^算略
 上ノ^算政^算策^算ヲ^算勸^算告^算スル^算旨^算ニ^算純^算然^算ニ^算勸^算告^算ス^算マ^算ラ
 ス^算テ^算時^算也^算ニ^算依^算リ^算テ^算少^算少^算強^算勸^算勉^算行^算セ^算シ^算テ^算可
 且^算之^算又^算軍^算事^算上^算ニ^算於^算テ^算モ^算種^算々^算ノ^算點^算點^算ヲ^算要^算求^算ス^算ル

MT

1615

564

MT

1615

563

場を以ての事なる事此等ノ勸告要求モ時ト
 して日政府又ハ人民ノ於テ世ハ得ルハ感ヲ生スル
 一恐ナシトセズ事此等ノ日ノ事ニ日政府モ所爲
 我ニ何れモ其ノ其ニ保合スルノ能ハストノ觀
 念ヲ有スルモノ如クハ我ニ勸告我ニ請求ニ對シテハ
 善事ニ勉強シテホク成レシメヨク相違ニ事ニ此等若
 我ニ要求ヨシ友ニ玉テ彼等ノ世得スレテ不
 善ナカラモ情ヲ他國海軍ニ海ニ我ニ勸告要
 求ヲ從録シ若クハ延座セシメテ求ムルニ玉テサルヲ
 保テ不端ニ或國政府ノ如キニ玉テ不常ニ其味不
 平キニ機密ヲ秘スルト判然タルハ若クハ一旦如此
 機密若クハ口實ノ興ルハ必ス巧ニ朝鮮政
 府ニ對シテ是レ日韓官ノ關係ヲ絶シテ其玉
 二涉ルニ關係トナシ朝鮮政府ノ代リニ我ニ抗議ヲ
 試ミルニ玉テナキニ我ニ對シテ此等ノ事ニ改
 符ニ於テハ務テ事ヲ慎ミ生シ第ニ玉テラシテ不

外務省

MT

1615

566

MT

1615

565

REEL No. 1-0713

0351

易ニ空家干涉ノ端ヲ得サレハ様法意ヲ加
 ルル肝要ヲ大ニシテ各ヲ本方良クハ閣下ハ又
 當法軍徴ヨリ其國ハ出張陸海軍總指揮
 及江各河合テ之ヲ各々ニキ權廟洋決言ニ成キ
 第一為テ朝鮮ノ我ニ權ヲ侵害スルガ如キ
 行由ハ軍事上不便若クハ不經濟ニ涉
 ルアルトモ可成之ヲ辨クベキ事
 第二朝鮮政府ニ對スル請求ハ時ニ已ラテ得
 外務省
 尤坂右ノ見ニテ陸軍其請求ノ極度朝
 鮮政府我ニ權ヲ侵及スル及テ新設法
 府ニ伴フ經濟上ノ關係ニ對シ地ニ得
 心至ルニ限トシテ之ヲ朝鮮政府ヨリテ
 我ニ要求スル地ヘガハノ我ニ對シテ極大
 之ヲ法意ニ事
 第三朝鮮ハ我ニ同盟シテ之ニ敵ニ非セハ國名
 ニ於テ軍事上及他ニ必要物アル片

MT

1615

568

MT

1615

567

公威丈其子等入平代傳多時の決し
侵掠ノ形跡多ク極ルルニ至リ

事

家述ノ通願渡汝ノ旨に以此義分當
軍機ノ事其出清陸海軍總指揮官
名に訓令ニ示シテ分令ニ能ク之
算ノ在所に於て是の旨に措キ

外

外務省

及訓令ニ示ス

MT

1615

570

MT

1615

569

REEL No. 1-0713

0353

次官



大臣



62

Otori,

Seoul.

(94) as stated in my previous telegrams it is most necessary to make Korean Government declare war against China, and ^{you should manage} ~~returning~~ ^{to return} of arms should be effected before the arrival of 西園寺 毅仁

Inform 佐川 毅 about ~~Mutsu~~ the mission of 西園寺 who leaves 馬場 八日廿五日.

Mutsu

Aug. 22. 1894.



1615

572

電送第 63 號

34/65



八月三十日

Copy

Aoki,

London.

28. Received your telegram 15. Korean Government announced that she is independent of China in 1894 and moreover requested Japanese Government to drive out Chinese soldiers at 牙山 and denounced treaties with China 七月廿五日. See last part of my 機密 第 30 号 dated 八月十日. As to complaints of Kingdom there is no foundation whatever perhaps persons in China's employ might have spread those false reports so as to bring discredit upon telegrams sent from Japan.

Mutsu.



1615

571

次文必家

42

治友
X
六八

機密 第三三三番

廿七年八月廿二日接覽

通商局 官印

通商局

原教

機密第一二七號

年九三

朝鮮内政改革勸告方針

現今朝鮮政府既根本的改革的方針
 緒ヲ刺キ且其改革ニ付重ク我勸告
 ヲ仰キテ様々之付テ内外人ノ耳目ヲ我
 等勸告并ニ其執ルル所主我々何注射
 スルカ如キニ有之レ而シテ世論ノ大要ヲ觀
 察スルニ甲ニ朝鮮の改革ヲ行ハントスルニ
 能ク其困難ヲ酌量シ徐々ト之ヲ行フ
 へシ決テ急劇ノ改革ヲ行フ(カラストモ)
 乙ニ今日改革事業ヲ以テ優柔不
 斷ノ朝鮮人士ニ付任スルニ不可ナラ
 我々深ク干渉シテ否ヤナシニ改革

在朝鮮國日本公使館

ヲ對行セシムルハトシテ其カ如クニテ世論未タ
 一セサレ有様ナシ此際我政府執ルル
 方針一定スルヲ欲スル所ナラザルニ
 別ニ其大綱ヲ認テ供養覺悟ヲ以テ
 議上何カ以テ示成改メ尤も別改メ
 四項ニ政府ノ招聘ニ付スルニ願ハシ
 テ一昨今中ノ有様ニ其種數
 一中期以内各ノ勸告財政ノ整理民政
 改良兵制ノ創設等ニ付二期ニ至
 法律ノ施行及農工商務ニ付三期
 則チ其必要ノ有様ニ其人員一二期
 於テ四五名位地ニ多ク政府ニ於テ
 官長等ニ奉給ニ未タ遺憾局ニ之先

MT 1615 574

MT 1615 573

REEL No. 1-0713

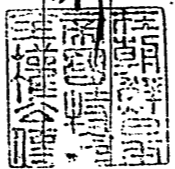
0355

三百田内外上以承古者以目下政府
 以財政未夕救正頌也九カ方傳給支出
 昔十年之若日痛ク先年大三輪増
 田等ノ覆轍ニ致シテ於招ノ人物如何
 古切之配改之集ト其案ハ先テ愈願
 招朝ノ約束ヲ固メ以テ又誠實老練ノ
 人物以推薦方致シ且ツ彼政府ノ依
 三因之我政府ヨリ一時旅費俸給ヲ以
 資後支之様改定ヲ得又才五頃米人
 願同官ニ若キ者アリグレートハラス
 改定トモトモ本山得モハ分氏程日
 并セカ上俄律西館下該ル親密ナレハ
 多少許并官ニ有ラト存別我ニ係此
 在朝鮮國日本公使館

同方中道

光緒二十七年八月十四日

特命全權公使大島圭吉



外務大臣陸奥宗光 殿

MT 1615 576

MT 1615 575

朝鮮内政改革勸告付我政府、
 執ル方針大綱
 朝鮮内政ノ改革ハ此際一時ニ各種ノ
 故弊政ヲ廢除シ根本的ノ革新ヲ進
 行スニ在リトモ行政諸般ノ制度ヲ
 立ルニ至ラニ其國情ヲ詳ニシ民智
 民力ノ程度ヲ量リ之ニ適應シタル
 度ヲ立テ然後國民ノ智カ増加スルニ從
 テ漸次之ヲ改良スルヲ要ス我ニ高尚ノ
 キ先法律ヲ制シ民情ニ適合セザル制
 度ヲ設ク(カラス
 二 旧來ノ制度ト是之ヲ存シテ之ヲ善キモノ
 又ニ之ヲ廢革シテ得ルモノノ利益ヲ
 却テ之カ爲メ痛ク民心ニ逆フ者ヲ暫
 ク之ヲ存スヘシ
 三 改革事業ハ可成丈朝鮮人士ノ手
 ニ任セテ之ヲ行ヒ我ニ要ク干渉セサルヲ
 所要トス何トナレバ則テ我ニ要ク立入
 リテ之ニ干渉スルトキハ或ハ支那ノ姓
 放フ所ニ免スル隨テ朝鮮人士ニ我
 玉ヲ獻スル心ヲ生セシメ七日中三國
 ラテ其際ニ投セシムル不幸ナラセス
 但ク我ニ朝鮮ニ付シテ常ニ威行
 ヲ保テ法事中心ニ成ラシテ勸告スル
 キニ殊更ニ深ク立入ラストモ彼等ヲシ

在朝鮮國日本公使館

MT

1615

578

MT

1615

577

REEL No. 1-0713

0357

テ永ク我カ目的ノ如ク運動セシムルヲ
得ヘシ

四 朝鮮政府ノ招聘ニ於テ中財政兵制
及法律ホノ顧問官ニ我政府ニテ之ヲ推
薦シ其身分ニ我政府ノ非職又ハ汎連
多ク特ニ非職ノ命セラレタル誠ニ其老練
ノ官吏若クハ政府ト由約アリテ始終我政
府ト同一ノ方針ヲ執ルモノクランラオス
此等トキハ朝鮮由政ノ改革ニ向テ本
館ニ余リ關係セム者ナリ右顧問官ハ
任スルヲ得所シ又右顧問官ニ對シテハ
政府ヨリ由約ヲ以テ決本館駐在ノ使ト
相議セシムル使ノ意見ニ振觸セザルオス

在朝鮮國日本公使館

五 玆米人感覺ヲ擡セガレカハメニ米人ノ
顧問官一二名ヲ雇ヒシル方得策ナラシ
但シ總括我ヲ保護スルヲ以テハ必ス我方針
ヲ達成セシムルヲ要ナリ

MT 1615 580

MT 1615 579

REEL No. 1-0713

0358

大分県 西臼杵郡 臼杵町 臼杵町長 臼杵 大分県 臼杵郡 臼杵町 臼杵町長 臼杵

臼杵町 臼杵町長 臼杵 臼杵町 臼杵町長 臼杵 臼杵町 臼杵町長 臼杵

臼杵町 臼杵町長 臼杵 臼杵町 臼杵町長 臼杵 臼杵町 臼杵町長 臼杵

臼杵町 臼杵町長 臼杵 臼杵町 臼杵町長 臼杵 臼杵町 臼杵町長 臼杵

臼杵町 臼杵町長 臼杵 臼杵町 臼杵町長 臼杵 臼杵町 臼杵町長 臼杵

臼杵町 臼杵町長 臼杵 臼杵町 臼杵町長 臼杵

臼杵町 臼杵町長 臼杵 臼杵町 臼杵町長 臼杵 臼杵町 臼杵町長 臼杵

臼杵町 臼杵町長 臼杵 臼杵町 臼杵町長 臼杵 臼杵町 臼杵町長 臼杵

外務省

臼杵町 臼杵町長 臼杵 臼杵町 臼杵町長 臼杵

臼杵町 臼杵町長 臼杵 臼杵町 臼杵町長 臼杵 臼杵町 臼杵町長 臼杵

臼杵町 臼杵町長 臼杵 臼杵町 臼杵町長 臼杵 臼杵町 臼杵町長 臼杵

臼杵町 臼杵町長 臼杵 臼杵町 臼杵町長 臼杵 臼杵町 臼杵町長 臼杵

臼杵町 臼杵町長 臼杵 臼杵町 臼杵町長 臼杵 臼杵町 臼杵町長 臼杵

臼杵町 臼杵町長 臼杵 臼杵町 臼杵町長 臼杵 臼杵町 臼杵町長 臼杵

臼杵町 臼杵町長 臼杵 臼杵町 臼杵町長 臼杵 臼杵町 臼杵町長 臼杵

臼杵町 臼杵町長 臼杵 臼杵町 臼杵町長 臼杵 臼杵町 臼杵町長 臼杵

臼杵町 臼杵町長 臼杵 臼杵町 臼杵町長 臼杵 臼杵町 臼杵町長 臼杵

臼杵町 臼杵町長 臼杵 臼杵町 臼杵町長 臼杵 臼杵町 臼杵町長 臼杵

MT

1615

586

MT

1615

585

REEL No. 1-0713

0361

一 得た由事ノ交際ヲ親善とし且つ望む所ノ奨励
 せし方又新報紙保存ノ旨を履取ノ沿革ノ一節ニ
 一 趣意既マ一併ナラシ
 一 布中々自甘する旨言出度ノ行ニ相う先由也
 一 長久保新聞意ヲ以テは冬廿二日出版
 一 七ナル所し
 一 本年政府ノ案ト新報ノ相うテ予期ナリト云
 一 其報せしメニストリヤト云え之因テ得た新報
 一 ノ報ニシテトテ報用ニ入る旨云々云々ニ
 一 府ノ案ト云へし旨は後定ス之れし
 一 以上一併ナリテ暫時^定条教ノ由御^定蓋ヤナリ
 一 又人及村各々ニ御定スル閣下御用ノ由云々
 一 ナリテ一併御定ス之れし
 一 乃御定スル由条教ノ由在ニ御定スル者ハ後
 一 又ニ案納トシテ云々ナリテ又ニ云々云々
 一 蓋御^定以テ御定スル所ニ
 一 本年五月廿二日ナリ
 一 新聞局長^定日^定新聞局長
 一 新聞局長^定日^定新聞局長
 一 新聞局長^定日^定新聞局長

外務省

MT

1615 588

MT

1615 587

REEL No. 1-0713

0362

九月九日午後二時發達
停七時九月八日發達

善政務局(高) 通商局長

機第一七六號

本一。通商局長

朝鮮政府内改革進行ノ模範一般

軍務機務處

去月十八日創立已未毎會議

大臣閣了

次官

ラ并キ革新事務ニ付評議ヲ凝シ至五ノ裁可
シ得テ施行ニ来リシカ本月二十日一新官制
實施ノ期日ナルツ以テ其準備ノ為メ同十八
日ヨリ二十日迄三日間休會シ其後二隔日開
會ノ制規ニ改メタリシカ近來緊要ノ議事必
キト各負擔官ノ本務ニ余間ナキトモ同リ再
ヒ去二十八日ヨリ五日間休會スル事ニ決セ

議政府并各衙門

議政府ノ建物ヲ襲用シ其他
ハ四六曹其他ノ役所ヲ襲用シ各々衙門ノ間

在朝鮮國日本公使館

テ官局ノ官負日々出勤致シ居ルモ本末並果
ラタル建物ナレハ免カノ修繕ツカニナル以
上ハ執務ノ用ニ適中セズ殊々新任ノ官負ハ
専ラ人材ヲ登用シタルニ拘ハラヌ執務ノ方
法着手ノ順序ニ至リテハ同官負ト同様ニテ
毫モ其見込ヲ乏ク又方ナレハ終リ迄ハ其
シ居ル迄ナリ尤モ其内ニモ衙門ハ其人ヲ
得タルカ否メカ事務ノ進行ニ付稍々見ルハ
キモノナキニアラサルカ如シ
大院尹ハ入閣後ハ専ラ改革派ノ意見ニ曲從
シ軍務機務處ノ決議ニ對シテハ絶ニ異議シ
容レラレス大抵認可シ與ヘラレ例ナリシカ
近來漸ク專恣ノ兆候ヲ顯ハレ既ニ國王ノ詔

MT 1615 590

MT 1615 589

可シ純ヲ發布セラシル法律規則ニモ頗着
 セラレヌアアリトテ改革派ハ常ニ憂慮シ或
 ハ其官ヲ辭セシト言フ者サハ有之日本米同
 君ハ頑固ナル守旧家ナレバ是迄意ヲ曲ケテ
 日本人ノ説ニ附同シ来リシ者ナレハ一旦其
 志ヲ得ルニ及シテハ其本色ヲ顯ハスハ無理
 ナラヌ事ナリ依テ今後ハ同君ヲシテ余リ我
 儀ヲ為サシメ又極端防スルハ頗ル緊要ノ事
 ナリ故又同君ト國王トノ御間柄ハ益々親密
 シカヘラレ何事ニ限ラズ總テ國王ヨリ御相
 談有之由又平生兩殿在互ノ御待遇ハ全ク御
 父子ノ禮式ニテ國王ハ常ニ尊爺ト稱セラレ
 同君ノ前ニハ敢テ跪坐セラレサル由ニ漏聞
 セリ

在朝鮮國日本公使館

清軍兵ノ改革事業ニ及スル勢力 清國ノ大軍既
 ニ平壤ニ入り時ヲ待テ在城ニ進襲セシトノ
 説アルヤ一時民心洶々トシテ定マラス政府
 部内ニモ純粹ノ改革派即チ新政府ト生光シ
 共ニセザルヲ得ザル地位ニ互斥ル人々シ除
 ヲノ外ハ竊ニ二心ヲ懷ク者アルカ如ク殊ニ
 宮内ノ官負ナレハ清兵ノ南下シテ皆望ムル者
 ナキニアラザル中ニテ改革事業ニ痛ク刺激
 シ與ヘタリシカ清兵ハ久ク平壤ニ駐屯シテ
 俄ニ南下ス可キ模様ナク之ニ及シテ我兵ノ
 来着益々多ク加之近來清兵ノ挙動ニ對スル
 懸評甚ク盛ナレハ民心漸ク安堵ノ觀シ呈セ

MT

1615

592

MT

1615

591

REEL No. 1-0713

0364

右及具申也

明治二十七年八月三十日

特命全權公使大島圭介

外務大臣陸奥宗光殿



在朝鮮國日本公使館

MT

1615

593

REEL No. 1-0713

0365